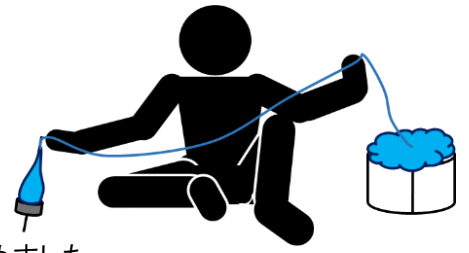


ぼうすいしゃ 紡 錘 車 で 糸 を つ く ろ う !

ぼうすいしゃ 「紡錘車」とは?



ぼうすいしゃ
「紡錘車」は、糸を「紡ぐ」道具です。
日本では弥生時代くらいから使われはじめました。
使い方は、まん中の穴に棒を通し、コマみたいにくるくる回して、
綿などのカタマリから繊維を引き出し、ヨリをかけて糸にしていきます。



ぼうすいしゃ
紡錘車

糸は細い繊維にヨリをかけて
まとめることで、
一本の太い糸にするんだよ。

糸はこんなものからできています。



めんか もめんいと
綿花→木綿糸

かいこ まゆ きぬいと
蚕の繭→絹糸

あさ
麻などの植物
→麻糸など

動物の毛→毛糸

はせつかべのとりまる ぼうすいしゃ 「文部鳥麻呂」の紡錘車

こぼりいせき
小針遺跡(行田市小針)から出土した平安時代頃の紡錘車です。
直径約4.5cmの円すい台形で、蛇紋岩という石でできています。

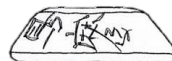
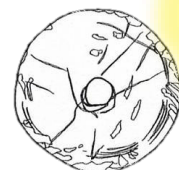
側面には「文部鳥麻呂」という名前が刻まれています。
「文部」は、地方から出向き、古代に朝廷の警備などをした人々です。
おそらくこの地域で暮らしていた豪族の1人だったのでしょうか。

ぼうすいしゃ
紡錘車は、糸紡ぎだけではなく、いのりやまじないをする
まつりの場でも使われていたようです。
他にも文章や絵などが刻まれた紡錘車などが
遺跡から出土することがあります。

むかしの人は、紡錘車にどんな願いをかけていたのでしょうか。



文部鳥麻呂



自分だけの「紡錘車」をつくって、糸紡ぎにチャレンジ!



【材料】

ねん土(大人の手の半分くらい)
棒(1本)
ようじやへら
ゼムクリップ(1こ)
テープ
わた
綿

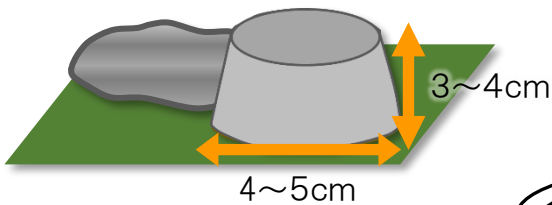
かわいても重みがあるもの。あぶらねん土でもだいじょうぶ。
丸みのあるわりばしが使いやすいです。
ねん土に文字や絵を刻みます。
のばしてフックにします。
セロテープまたはマスキングテープなど
ふとん綿など、繊維が長いもの。

1. 「紡錘車」をつくります。

ねん土をこねて、4~5cmの円すい台に形に整えます。

紡錘車のまわりにあなたの名前や絵を刻みましょう。

棒を差し、しっかりと固定します。クリップをフック状に曲げのばし、棒の先にテープで止めます。



イラストやもようもステキ!



完成!!

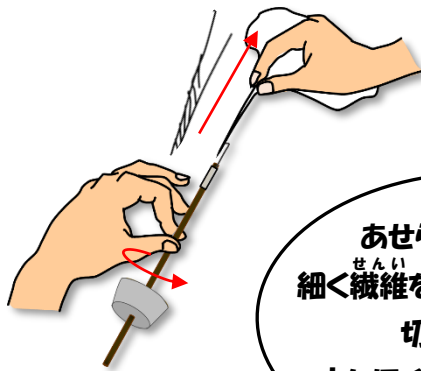


2. 糸紡ぎにチャレンジ!

綿をほぐしてフックにはしっこをひっかけます。

少しだけ繊維を引き出し、紡錘車をくるくる回転させてヨリをかけます。

ヨリがかかったら、ゆっくり繊維を引き出して紡錘車をコマのように回転させ、またヨリをかけます。



引き出しては回し、引き出しては回しをくり返します。
肩幅くらいまで糸が出来たら棒に巻き取り、また繊維を引き出します。

最初は15cmくらいの長さをめざそう!
できた糸を2本どりにしてもう一度ヨリをかけると丈夫になるよ。

